

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2015年10月号(第10号)



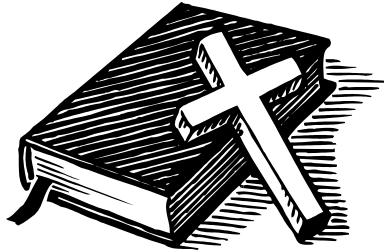
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。【伝道者の書 3章 1節】

8月31日に私の父が天に召されました。66歳でした。日本人の平均寿命からすると、随分と早く死を迎えたように思います。65歳での定年後、大学に通い始め、第二の人生を歩み始めて矢先のことでしたので、息子としては寂しい思いもあります。父は亡くなる一週間くらい前から体調の異変を感じ、家で寝ていることが多くなりました。亡くなる前日(30日)は、教会で礼拝があり、司会の奉仕をしていました。しかし、立って賛美をする時に、立っていることが出来ず、椅子に座っていたそうです。礼拝後、教会の方に「自分の人生は良い人生だった」。また、会計の奉仕をしている時も「自分はこの奉仕はもう続けられない」「自分の次の役員のことばは考えているか」と言っていた

そうです。おそらく父は、自分の死が近いことを感じ取っていたのだらうと思います。私は、教会での様子を母から電話で聞きました。また、看護師をしている姉にも電話をし、礼拝での様子を聞いた所、あまり長くないだろう、と聞きました。ですから、母には、明日(31日)会いに行くと言いました。しかしその後で、もう一度母と電話で話していたら、父の様子がいつもと少し違うということなので、22時頃に佐倉を出発し、日付が変わる頃に実家に着きました。それから1時間ほど父と母を交えて話をしました。その会話の中でも「これが最後の言葉だ」ということを繰り返していました。そして、その約2時間後、父は天へと帰って行きました。

今月の聖書のことばには「死ぬのに時がある」とあります。その「時」が父にとっては、2015年8月31日午前3時頃でした。人は生まれたら誰もが死に向かっていきます。いつ死ぬのかは、誰にも分かりません。聖書には「風を支配し、風を止めることのできる人はいない。死の日も支配することはできない。この戦いから放免される者はいない。悪は悪の所有者を救えない。」(伝道者の書 8:8)とあります。私たちは無力な存在です。風を支配することが出来ないように、死の日も支配することはできません。そして、この戦い(死)から放免される人はいません。私の父は、亡くなる直前、自分の「罪」について、赦しを請う祈りをしました。おそらく、死を目前にして、父の中に咎めるものがあつたのでしょう。父は一生懸命赦しを請う祈りをしていました。死と真剣に向き合っている父の姿を忘れることはできません。

私たちは、誰もが必ず死を迎えます。その死とどのように向き合うか。自分の人生

を振り返ることは大切です。また、自分はどこへ向かうのか。死んだらどうなるのか。どういう状態になるのか。分からない事もたくさんあるわけですが、私たちは真剣に向き合う必要があります。日本人はホテルやマンション、駐車場の番号などを見ても、死を忌み嫌う傾向にあります。しかし、必ず来るものならば、聖書の言い方を借りれば、「戦い」ならば、私たちは真剣に向き合う必要があります。そして、決して死は絶望ではなく、希望であり、勝利することができるものであることを知る必要があります。それは、人類で唯一死に打ち勝ち、復活したイエス・キリストを知ることによってのみ可能になります。ぜひ、死に勝利された、復活されたイエス・キリストについて学びに、教会に足をお運びください。

◆コラム

父の死に際し、色々な方が祈ってくれました。今回ほど祈りの力を感じたことはありませんでした。祈りは距離があっても、その距離を越えることができます。そのような素晴らしい「祈り」を与えてくださった神様に心から感謝しました。今でも寂しい思いはありますが、天での再会を楽しみにしつつ、天の御国がより身近になりました。この通信でも、しばらくは「死」について聖書から考えていきます。

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 10:30～11:45
教会学校 9:00～10:00

○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
19:30～21:00

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。